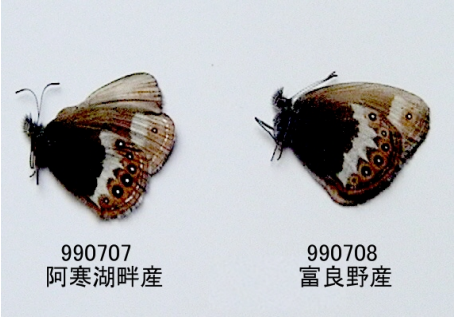
July 7, 1999：阿寒湖

久しぶりの阿寒湖畔の早朝散策に適当な庭とか森はなく、適度に叢が残るバスターミナル近くを探ってみる。6 時前の早朝叢はまだ夜露にぬれており、気温もあまりあがっていないために、さすがに飛び遊ぶチョウはまだ目に入らないが、長年きたえたこの観察眼が、斜面叢の一角に静止するシロオビヒメヒカゲを見逃さない。そのままではネットをいっぱいに伸ばしても届かない高い位置。さいわい斜面を補強するひし形のコンクリート枠が足場として利用でき、ゆっくり登って北海道中東部産亜種をしとめる。水平距離換算で 10 メートルばかりの斜面は、中ほどに幅 50 センチ程度の平坦部が設けてあって、そこに繁る長めの芝草にまだ数頭のシロオビヒメヒカゲがいて、わずかに気温があがる気配にヒョイヒョイと飛びはじめる。数頭の新鮮体をゲットしてホテルにもどる。

July 10, 1999 年：定山渓豊平峡

年配の同好の男性が白いネットをもって上ってくる。シロオビヒメヒカゲはいたかと尋ねると別の採集者がジョウザンシジミと 1 頭ずつ採ったらしいとのこと。上の崖下でねばればジョウザンシジミは採れるかもしれないと伝えて下る。道沿いに熊笹が繁る平坦な道でボロのジョウザンシジミに出会いビデオ記録をして進むと、若いカップルがともにネットをかついで仲良く歩いてくる。シロオビヒメヒカゲをしとめたのは多分彼らだろうと話しかける。「どこらへんにいましたか」「この辺りですよ。決して個体は多くないですね」「もう発生時期が過ぎたということ？」「いや、時期は今でもじゅうぶんいい時期ですがね」。どうやら彼らはもっぱらシロオビヒメヒカゲ目的でここのポイントを行ったりきたりしているらしい。われわれは時間的に余裕がないのでさらに下るのみ。いよいよ暗い樹林内の道に入ろうかという辺りの熊笹の枯葉上にまぎれもないシロオビヒメヒカゲを見つける。オオイチモンジなんかに比べれば採集に苦労しないチョウなので、待望のきわめて貴重な採集タイミングであるにもかかわらず、左手にクジャクチョウ幼虫のためのイラクサをもったまま右手 1 本でネットをかぶせこんでゲット。普通、ネットの先端を高くかかげるとチョウも上の空間に移動して処理しやすいのだが、今のヒカゲ君はネットと地面とに隙間でもあろうものならサッと逃げてやろうという魂胆がみえみえの動きをしている。しかたなくイラクサの束を近くに放置して珍チョウの回収に専念する。ネットの中で動く姿をネット越しにビデオ撮影もして生の記録とする。阿寒湖畔や金山ダムで採れた個体にくらべて白帯の幅が狭く、この辺りにしかいないというきわめて珍しい亜種が採れて、ついに今回の豊平峡訪問の目的を達成する。



Copyright© 1999- Soft House JUMP. All rights reserved.